

何事に 浅い上りのした
ついても 知識しか持たず
「何事にも 浅い上りのした
ついても 知識しか持たず
「何事にも 浅い上りのした
ついても 知識しか持たず



利休居士の心をわが心に
もい、た、茶を通して會得
利休の心 した心を活かしていくとこ
それが今 茶道があるのです……と
松尾先生は話し下さった。
さあ私達もこの利休の心に生
きて職場をうるほし、世の中
を明るく輝かす働きかけを
求めていこう。高野新道高野新道にて二十八日

花に酔へるは桃季の盛なる
也。我が后一日の沢、萬機
の曲水遊をひもといてよく眼に
つくのはこの曲水遊(二)す
余、曲水遊かなりと雖も……
云々といふ宮公
あえんりのみまびの集ひであ
るが、わが國においては職宗
の御代頃から三月三日の文
事として数多く記録に残され
てゐる。但し鎌倉時代以降は
賑つたやうで、一時後醍醐天皇
と紅梅の折しも、聖天子萬
日に行はれ、屈曲した水流に
身を臨み、君の恩み
にうらむ曲水の宴……と
杯を浮べ、流れ来る杯の過ぎ 集に見る。

一生懸命 引續き新手法々と相手が
でこしらへ やつて来たら燃料などの
た飛行機が 基地は廣い運動場のやう
前線の飛行 関係で大きい困ることに
場地上で離 なる。まして艦隊や陸軍、
破される場 長さ千五百米位の滑走路
合もあると は森の中に小屋のやうな
いふことば 飛機を造つて置く
つて残念な 急に艦隊がやつて来た
だがやつて 飛機を滑走路に出す
飛機が舞ひ 飛機を滑走路に出す
飛機が舞ひ 飛機を滑走路に出す

我等の身體

我々日本人は餘程に手先が器用で
あるが、それは我々が食事に寄
用ひ女は幼時から折紙、縫とり、長
じては針仕事等で手先を訓練した
からによるものといへよう。スプ
ーンやフォークを使用する欧米人
から見れば、我々が箸で豆をつま
んだりするのはまさに驚くべきこ
だ。また我々が下駄や草履を使用
してゐるとは靴ばきで習慣づけら
れた欧米人より足指の感覚を著し
く発達させる結果になつてゐる。
さらに坐る習慣が飛行機や戦車、
潜水艦のやうな近代兵器使用上に

前線の飛行機は
かくの如く保護される
必要もあるのだから、敵機の中などに幅四、
五、六十米ほどの滑走路を、
飛機が舞ひ上つては、
飛機が舞ひ上つては、
飛機が舞ひ上つては、

ビタミンB6が
動人には大切で
ある人は皮膚を強く爪が
と赤く腫れて卅分以内に回復
しないから判定できる。但しB
6は糖に多量含まれてゐるから
一分米を食へてをれば安心で
ある。

脂粉を塗放し、一徹一徹の母
胎、髣髴を通じて身近かに戦
争を感じてゐるのだ。冷めた
取崩はゆがけ着るばかりで
なく、ゆの温度を落すため、
うす物の織込みが出来なくな
るからだ。上型、下型をボル
トでしめつける彼女らの力！
それはとりも直さず増産を
背負つて立つ力である。

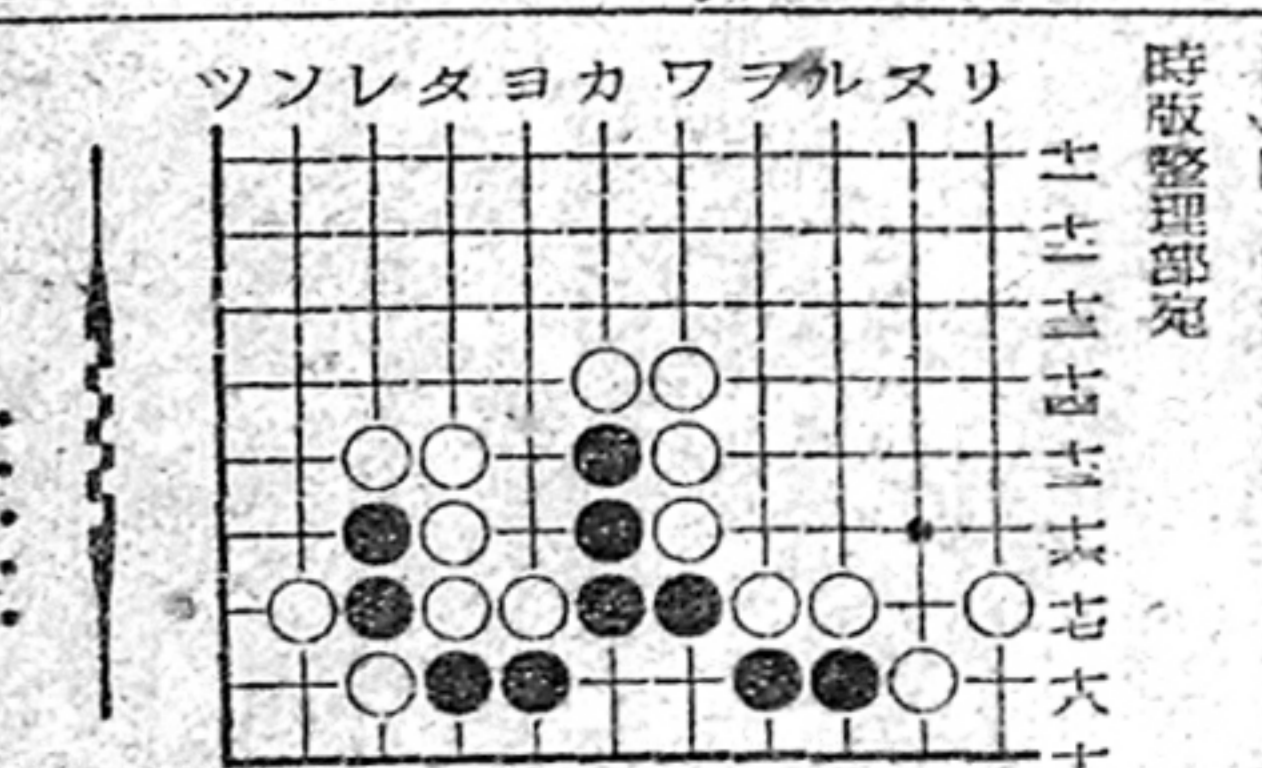


規定について(一)
手合割(有段者) 同段は「相
先」一段差は「先相先」二段差
は「四局先相先」三段差は「定
先」五段差以下は「定先」で一
段差を増す毎に「二ヶ所嫌」
二ヶ所嫌とは、先手方が第三
段即ち黒三の打着に際し自分が
指定されて不利な着点と思ふ所
を、黒一より一間飛びまでの範
圍内で其處と此處と二ヶ所だけ
指示して相手の指定を避け難ひ
得ることをいふこと。

文は人なり
高山樗牛
樗牛高山林次郎(明治四年生、
三十五年歿)は明治中期の
代表的詩人評議家。その短い
生涯は當時の思想界、文藝界
の潮流に映えて輝きをきほめ
る。だが、もと日蓮の文章を

人にも植まつてゐる。これと共に
日本人の職ぐき忍耐力や氣風
がものをいつてゐることも勿論で
ある。かつては高度の機械文明が
人間の手足の働きを段々不要にし
つてゐる。

目一四、中部日本新聞社編輯局
時政整理部宛
士七五七五七六九
スリ
ワ
カ
ヨ
レ
ソ



即ち「名人」と「初段」の対局
の場合「初段、定先十ヶ所
嫌」となる訳です。
向「相先」とは、互先とも稱へ
て述べます。
「先相先」とは、三局対局する
中「下段者が二局先手番を打
ち」「上段者が一局だけ先手番
を打つ」こと。
「四局先相先」とは、六局対局
の中「下段者が五局先手番を打
ち」「上段者が一局だけ先手番
を打つ」こと。
「定先」とは、互先に「先」とも
稱へ「下段者が先手即ち黒ばかり
す。

語した一節たる本誌は、日本
語独自の調子と深い内容を有
し、樗牛自身が身をもつてこ
れを實踐したのみか今日なほ
烈々と生きてゐるのである。
【解説 西村孝次】

情あるこそ
近頃は人情味が乏
しくなつていけ
いとよく申します。物一つ買
ひにいづつても叱られるやう×

も喰べようと思つて機内をうろつ
てゐるうちに、歌の前の座席に
五六人の兵士がシャツ一つになつ
て論じさうに話しあつてゐるの
を見つけたと、すゝその方へか
つていづつた。
「失禮ですが」
誰に對してともなく彼が、さう
言ひながら椅子に手をかけた
「へえー」
と、間延びのした聲で、一人の
男が彼の方を振り向いた。上着を
着てゐないので階級はわからない
が、先づ小助の眼に映つたのはい
かめしいおぼろげであつた。電だけ
はいかめしいが、見るからに人の

れから横に
ールの空響
しながら、
を迎へるや
「おかけや
と、言つ
かけられた
ドキマギし
彼は小聲で
「あなたは
「あなた
「あなた
「あなた

小助が口
をしてみせ
小助が口
をしてみせ
小助が口
をしてみせ

名刺を彼の
小助が口
をしてみせ
小助が口
をしてみせ

小助が口
をしてみせ
小助が口
をしてみせ